

第 15 期第 4 回千代田区生涯学習推進委員会議 概要報告

2月25日、第4回千代田区生涯学習推進委員会議が開催されました。
前回会議で行われた『生涯学習推進委員が千代田区で関わっている活動や事業、区内での活動についての意見交換』につづき、今回の会議では、千代田区の特徴を踏まえ、区および区の関係機関が取り組む事例紹介、意見交換を行いました。以下、概要をお伝えいたします。

今期テーマ

「千代田区における住民交流の促進に資する生涯学習の役割

《副題》—長期居住者としての高齢者と短期居住者としての若年者に焦点を当てて—

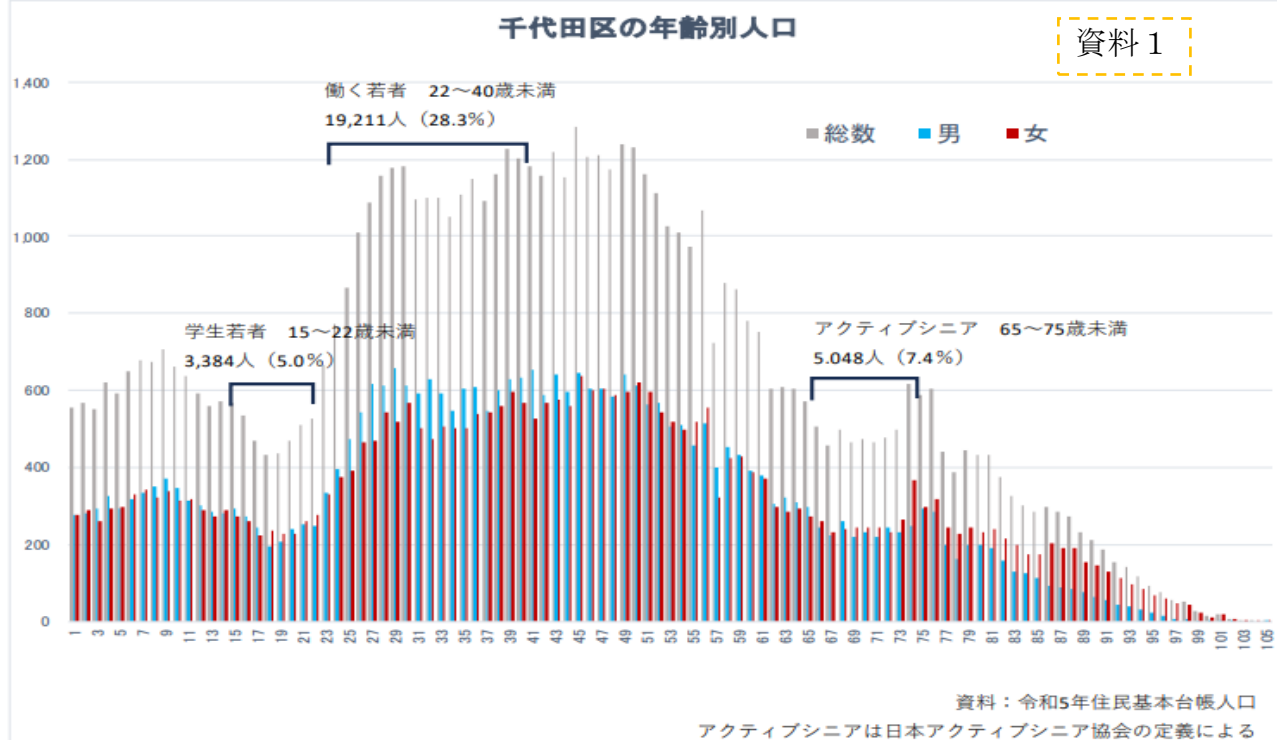
- 3つの論点
- ①共生社会の実現
障害者、外国人等を含めた世代間・多文化・多民族間の交流を通して、地域コミュニティの維持・活性化を千代田区としてどう進めていくのか。
 - ②人材の育成と施設
地域コミュニティの維持・活性化を視野に入れた社会教育人材の養成・講習に向けて社会教育・生涯学習施設の提供を含めて、千代田区としてどのような役割が担えるか。
 - ③世代間交流
高齢者を若者のメンターや伴走支援者として、千代田区の世代間交流を進める生涯学習推進の担い手として活用できないか。

1) 千代田区における世代交流の促進について

今回のトピックス

- 
- 社会的包摂(社会的に弱い立場にある人々を含め、排除や摩擦、孤独や孤立から援護し地域社会の一員として取り込み、支え合う)の観点から、外国人も含めた実態と今後の対応はどうなっているだろうか。
 - 今期テーマの『相手』を見つめる。(高齢者、若年者)
 - 現状、どのような施策や活動があるだろうか。
 - 高齢者、若者それぞれ興味あるテーマが違うなか、共通して訴求する、双方が興味を持って参加する、その人たちを引き込むための方法を探る。
 - 現在の施策や事業の課題は何だろうか。
- このような論点で探ります。

資料：検討テーマの対象となる人口



- 若 者 ： 15歳から22歳未満。全体の5%ほど、約3,400人。働く22歳から40歳位の方のボリュームが大きく1万9千人超。1万人程が流動しており約半分は3～5年ほどで転出する人が多い世代。
- 壮 年 ： 45歳から50代まで徐々に減少しているが千代田区には多く居住されている。
- 高齢者 ： 約5千人。アクティブシニア協会の定義では65～75歳。基本的に元気な方が多い。



長期居住者としての高齢者は、割と区と関わりのある世代。短期居住者として入替わりが激しい層は、区としてもなかなかアプローチしていない、かつ見えない世代でもあります。そうした世代に対し、応援の形でいくつか施策を行っている中から、今回は国際平和・男女平等人権課および千代田区社会福祉協議会の事例紹介を行いました。

2) ちよだイズム倶楽部について（国際平和・男女平等人権課）

国際平和・男女平等人権課長 永見由美

『ちよだイズム倶楽部』

女性会議としてスタート。地域課題の発掘、子どもの居場所づくり、特技を生かした子ども向け事業、カフェ、多文化共生サロンなどグループが立ち上がった。

令和6年度からターゲットを若年層に変更。地域でどのように活動するとよいか、ロールモデルの方の講義を行い、これまで20～30代16名が参加。区政になかなか関わりのない方に向けて始動。現在3期生。暮らしのストレスを解消するサービスや、多様な人材が地域で生き生きと暮らせる社会を目指して一步を踏み出すきっかけとなるような事業をめざす。ターゲット層の7割がインスタグラムを利用、メインに広告を打った結果、広告が画面に表示された数17万回、広告を見て画面を開いた人が8万5,000。ホームページに行った方が2,400回。統計上、教育学習分野の平均は1.17%であるが上回る視聴率になった。しかし募集30名に対して16名。広告を打っても、地域課題に取り組んでみようという方、なおかつこの若い世代は難しいといえるのではないかな。

『国際交流ボランティアバンク』

区には4千人程の外国人登録の方がおられ、人口の6%を占める。区内に18か国の外国公館がある。区が開催する国際交流フェアで活躍されているのが、国際平和・男女平等人権課に登録されている国際交流・協力ボランティアさん。ボランティア活動をしたい方と利用したい方をボランティアバンクとしてマッチングしている。保育園の会議、保護者会議の通訳、日本語の勉強、ホームビジットなども始まっているがまだ活躍の場は少ない。



3) 千代田区社会福祉協議会における多世代交流の取組について

千代田区社会福祉協議会高齢者活動センター 永松 誠

千代田区は企業や学校が多く、昼間人口80万、90万というユニークな区。区民の課題解決のために活動したいという企業の方、学生たちのコーディネートは地域の住民の福祉課題を解決する上で重要である。

『多世代交流Ciao! (チャオ)』

高齢者の支援と子育て支援を分けて考えるのではなく、子どもや高齢者のつながりづくりの多彩なプログラムを実施。若い世代は2~30代をイメージ。活動の主体は、学生、区内企業の方、区内大使館の方、NPOの方。これ以外に千代田区には「結果的に多世代交流になっている」というものがたくさんあり、スマホの困り事を学生や企業の方にお願ひし、逆に子育て中のお母さんたちのサロン運営のお手伝いを民生委員や、子育てを経験した方が参加するなど、それぞれの困り事解決に違う世代の人が関わる取組もある。

『ちよだ企業ボランティア連絡会』

多世代交流の視点。企業が多い千代田区の取組として1社だけではできないことを、複数企業の担当者が集い、その企業の社員に呼びかける。

『ちよだボランティアクラブ』

企業の社員に直接、区内ボランティア情報をお届けする仕組み。働き盛りの若い人は、居住地よりも学校コミュニティ、会社コミュニティの帰属性が強い。縁あって事業所のある地域にどう貢献をしていくかという視点を持つ企業や学校も多い。企業の得意分野を活かした社会貢献活動、区内大学生、社会人ボランティアとの連携も行う。

『障がいのある若者や高齢者への支援・連携』

障害福祉分野の関係機関と連携し、困難を抱える人と支える人をつなげる。多世代交流の中でも若い人をどう巻き込んでいくか、在住者・在勤・在学も含めて活動を作っていく、関わっていくという視点を持つなかで『災害』はキーワードとなる。



現在展開する施策などからは、○『交流』を目的としたものは少ない○人が集まっても成果が出るには時間も必要○企業は人が入れ替り、大学生は卒業して地元に戻るなど同じ人による『継続』が難しい○男女を分ける時代ではないが地域デビューや仲間づくりには差が出てしまっていることなどが示されながらも、制度の狭間で漏れてしまう課題を住民やボランティア、若い人の力、昼間人口となる働く人びとの支え合いの大切さをあらためて認識することとなりました。



4) 意見交換

- 若い世代が増えたほうがよいのは総意だと思うので、例えば年に何回ボランティア活動をする
と少し、家賃補助か何か特典があるなど、区のほうで打ち出し、若い世代が住みやすいよ
うにしていけるのも1つの方法ではないか。
- 若い人たちが非常に今、金銭的に困っている。例えばスポーツや健康を軸として、ジムの代
わりとなるスポーツ、身近なダンスや、エアロビクスのような活動に参加していけるような
仕組みづくりができれば、多世代交流はできるのではないか。
- 地域へのアプローチのしかたが積極的な人にとってはよいが、多くの人たちはそうではな
いので、そういった人たちに対してどうやって手を差し伸べていくのか。そういうことが大事
ではないか。
- 特に男性の地域デビューは健康にとって大事だよと、公文書に取り上げほしい。
- 82歳の母がかがやきプラザにデビューした。生き生きとやっているが、興味はあるけれど
行かないというのがずっと続いていた。一念発起し、行ってみたら楽しかった。しかし行く
までのハードルは結構高い。そこで例えば若者に送り迎えを手伝ってもらい代わりに高齢者
と一緒にジムを無料で使わせてもらうなど、若者にとってプラスだと思う。あるいは勉強講
座。多分、若者も無料で受けた内容もあるかもしれないので、多少割引になるなど。若者
にもメリットを渡して、ウィンウィンな関係を保つという仕組みはどうか。若者と高齢者
と一緒に若干交流するとか、行き帰り一緒に行けるということだけでも変わってくるのでは
ないか。
- 以前、地域のお年寄りを対象にした招待給食というものがあつた。子どもは年を取った方や、
誰かの親とかおじいちゃんの顔の認知度が高くよく知っていた。給食無償化の今では課題が
あるかもしれないが復活させられないものだろうか。
- ファミリーサポートの活動をしていた。サポートする側を何年もやっていたが、例えばサポー
トする側を少しサポートしてくださったりするとよいと思う。つながりだけではなくて、その後
のフォローなどがあれば活動しやすくなる。
- お店がポイントカードを出しているのは、やはり継続につながるからなのだろう。サポーター
のポイント制度はよい。
- 千代田区には国際交流協会がない。阪神・淡路大震災の時、外国籍の人と日本人とつなが
ったというケースがあり、外国籍の人たちが炊き出しを行った。万が一、災害が起こった
とき外国籍の人たちも巻き込んでどう対応していくか。
- 災害が1つキーワードとあつたが、多分災害のときに、救える1つのバイスタンダー(※)
がほとんどで、千代田区の場合だと昼間人口あるいは外国人の方が、もしかしたら住民の方
の命を救ってくれる存在になるかもしれない。(※バイスタンダー:救急の現場に居合わせた人、
発見した人)
- 人口に占める外国人の方はどの国が多いのだろう。どのような目的で入国されているのだ
ろう。次回会議でお伝えしたい。

次回、第5回生涯学習推進委員会議は5月16日開催です。

生涯学習におけるスポーツと地域交流の相乗効果



庄司 由美子

「生涯学習」はどれだけ世間に認知されているのでしょうか。スポーツ推進委員になる前、私の周りでは話題になる事はありませんでした。そして生涯学習の1つであるスポーツやそれに伴う地域交流についても、私自身スポーツ推進委員になるまで特に意識しておりませんでした。

スポーツが健康に良いと言われているが何をしたら良いのか分からない、地域交流って具体的に何？ 両方とも自治体が推奨しているけど必要なのかな？ 日常生活には困ってないけど。これがスポーツや地域に関わる前の私の感想でした。

些細なきっかけでバドミントンを始めた処、身体を動かす事や共通の趣味で出会えた人達との交流はとても楽しく、スポーツに対する考えが大きく変わりました。そしてその御縁でスポーツ推進委員になり、様々なスポーツと出会いその奥深さに気付きました。

スポーツや地域との交流がなくとも日常生活に大きな支障は感じないかも知れません。ですがスポーツを通じて健康になり、地域との繋がりを持つ事で自身のクオリティ・オブ・ライフ（人生や生活の豊かさ）向上に繋がるのではと思います。

スポーツ推進委員協議会では、定期的に地域の方々と交えて様々なスポーツイベントを開催しております。その1つにニュースポーツと呼ばれる年齢や体力に関わらず誰でも楽しめるスポーツがあります。昨年度はボッチャとモルックを実施し、今年度は引き続きモルックを開催します。

少しでもスポーツや地域交流に興味を持たれた方は、是非この機会に足を運んでみては如何でしょうか。



【編集／発行】千代田区 地域振興部 生涯学習・スポーツ課 〒102-8688 千代田区九段南1-2-1
TEL：03-5211-3632 / FAX：03-3264-1466 / Mail：shogaigakushuu@city.chiyoda.lg.jp